



神埼市立脊振中学校 学校だより

# 樹人舎 第7号

令和5年7月12日 校長 牟田美弥子

【学校教育目標】

脊振を愛し、進んで学ぶ、たくましい子どもの育成

【令和5年度の生活目標】

- ①自分たちで学校のよい雰囲気をつくる
- ②周りに信頼されるにはどうあるべきか考えて行動する



## ☆三養基・神埼地区中学校総合体育大会

7月1日・2日に開催された地区大会で、本校の生徒が躍動しました。結果をお知らせいたします。

- ・バレーボール男子 1位（県大会出場）
- ・剣道男子団体 3位（県大会出場）
- ・剣道個人と卓球個人は勝ち進み、順位決定戦で惜しくも県大会出場を逃しました。個人戦に出場した全員が、粘り強く素晴らしい戦いを見せてくれました。

脊振勤労者体育館では剣道競技が行われました。脊振公民館のはからいで周辺の除草をしていただき、感謝しています。

## ☆お気に入りの本を紹介 校内読書会

6月、『本のパワーみなぎる脊振中』では、1年生から3年生まで混じってグループをつくり、読書会を開きました。全員が、校内読書週間の間に図書館の本を読み、その本の表紙やページを示しながら、おすすめポイントを紹介しました。

予想もしていなかった質問をされ、あわてて答えるその中に本の魅力が感じられる応答がたくさんありました。「今度借りて読んでみたいです」という声があちらこちらから聞こえてくるすてきな読書会でした。



## ☆中国講座① —太極拳に挑戦— 6月

太極拳は古くから中国に伝わる伝統武術です。脊振中では令和元年から「柔らかくゆっくりとした動き」を中心とする「簡化24式太極拳」を習っています。

音を立てずに踏み込むなど、呼吸を整えながら体幹を鍛える動きに少々苦勞しながら、講師の先生の動きについていきます。

講師は、中国大連市歌舞団（特別国家公務員）に選ばれ、舞踏家として19年間歌舞団の公演の舞台に立ってきた張琪先生。

令和元年7月に姉妹校である山西大学附属中学校の生徒が来校したとき、両校の生徒たちが一緒に太極拳と脊振音頭を体験しました。そのとき、中国の生徒がテレビ局のインタビューに「中国の武術や日本の踊りを互いに教え合いながら、交流を深めることができた。私達はこれからも互いのよいところを学び合って交流を続けていけます」と話したことを思い出しました。

## ☆JRC（青少年赤十字）結団式 6月

長年 JRC 活動を続けてきている脊振中では、毎年1学期に結団式を行っています。この式の中で、全校生徒に見守られながら、1年生の代表が3年生に JRC バッジを付けてもらいます。

JRC には実践目標として、①健康・安全 ②奉仕、③国際理解・親善の3つがあります。脊振山での美化活動や中国との姉妹校交流、エコキャップ運動、3年生が今年度新たに取り組んでいる地域貢献プロジェクトなど、脊振中の学校生活の多くが JRC の実践目標につながっています。

校門のそばに、赤十字シンボルツリーのイトスギがあります。この木の枝を切って育てられた苗木が、県内で JRC に加盟している多くの学校に贈られてきています。



## ☆ふるさと学習①ー脊振の自然を学ぶー

1年生が「神埼ふるさと学習」をスタートしています。実際に山に登り、脊振山の植物について学ぶ様子は、真剣そのもの。そこには、見上げていただけではわからなかった景色がありました。

当日は、佐賀県親林交流指導員3名の方が、生徒たちと一緒に山に登って詳しく教えていただき、そばにあってもこれまで気づかなかった植物の美しさや植物の不思議さに出会わせていただきました。

バスを出していただいた神崎市、安全な登山のため2回も下見をしてくれた5名の先生方にも感謝です。



研修です

研修です

## ☆安心・安全な学校にするために学ぶ

いざという時に心や身体を動かすためには、実際に近い形での練習を重ねることが有効です。1学期は、生徒たちの安全を守ることを優先して内容を検討し、教職員の研修を実施しています。

①神埼警察署と脊振駐在所に講師をお願いして、学校での不審者対応について学びました。

②神埼消防署三脊出張所に講師をお願いして、学校での救急活動（AEDを使った心肺蘇生法と食物アレルギー対応）について学びました。

何事もないことを願いながら、これからも安全を守るための教職員の研修を積み重ねていきます。



よりよい使い方に更新しよう！

## ☆インターネット = 利便性+危険性

授業参観の後に、中学校の育友会との共催で、インターネット利用について学ぶ学習会を開きました。

日々進化しているインターネットの世界。そのスピードは、驚くほどの速さです。利用する私達の方も、便利で新しい機能だけでなく、その機能を使う上での危険性の知識を日々更新していく必要があります。同時に、家庭での使い方のルールも定期的に見直す必要があるということで、学習会に合わせて家庭のルールのアンケートにご協力いただきました。結果を地区懇談会の折に見ていただき、ありがとうございました。



## ☆第2回神崎市中学生サミット 6月

毎年、神崎市内の3中学校の生徒会の代表が集まり会議を行っています。前回の会議から各学校でどのように取り組んできたか、今後どのような計画があるかを発表し、グループ別に協議を行いました。

生徒会長の脊振中の発表を聞いて、他校の生徒から「どうやってそんなにたくさんのペットボトルキャップを集めたのですか？」と質問があり、JRC委員長から「自分たちが家庭から持ってくるだけでなく、脊振支所や福祉施設をはじめ地域の多くの方に協力いただいている」と回答しました。



## ☆先輩 仮屋竹葉さんに書道を学ぶ 4月、7月

仮屋さんは、昭和32年度、第11回卒業生です。脊振中学校時代は書道クラブに籍を置き、現在は書道家として活躍されています。

また、「脊振中の先生に書道に会わせてもらった。その恩を直接その先生に返すことはできないので、生徒たちの書道の学習を手伝うことで少しでも返したい」と、福岡から足を運んでくださっています。

2回目となった7月には、2年生が「この時間の最初に書いたものと最後に書いたものでは、自分が見てわかるくらい文字の形がはっきりと変わりました」と、感想とお礼を述べました。

「恩送り」 誰かから受けた恩を別の誰かへ送る。その人はまた誰かへ。  
そうやって、恩が世の中をぐるぐるぐるぐる回っていく。(作家、井上ひさし)